

研 究 分 野	資源評価	部名	資源開発部
研 究 課 題 名	東通原子力発電所温排水影響調査 海洋生物調査		
予 算 区 分	水産業企画調査費 （交付金）		
試験研究実施年度・研究期間	H. 15 ～ H. 27		
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握する。なお、本調査は東通原子力発電所温排水影響調査実施計画に基づく調査項目のうち定置網水温及び主要魚種漁獲動向（サケ）について実施した。

〈試験研究方法〉

1 定置網水温：サケ定置網に設置（3地区）して日平均水温を測定した。

2 主要魚種漁獲動向（サケ）

(1) サケ沿岸漁獲変動：平成18年漁期のサケ沿岸漁獲尾数を集計した。

(2) サケ標識放流：サケ親魚の標識放流は、白糠漁港前沖にて平成18年11月18日に28尾、11月24日に29尾の合計57尾を放流した。

〈結果の概要・要約〉

1 定置網水温

平成18年のサケ定置網海域日平均水温は、9月は19.0～21.8℃（前年19.2～21.8℃）、10月は15.7～19.6℃（前年17.4～19.5℃）、11月は14.2～17.1℃（前年14.1～17.5℃）、12月は11.5～14.2℃（前年11.2～14.2℃）、1月は10.3～11.5℃（前年8.1～11.3℃）であった。

2 主要魚種漁獲動向（サケ）

(1) サケ沿岸漁獲変動

平成18年漁期のサケ沿岸漁獲尾数は青森県全域で164.1万尾（昨年比130.5%）、そのうち太平洋側が118.7万尾（昨年比162.0%）であった。また、白糠漁協と小田野沢漁協の合計値は22.3万尾（昨年比137.7%）であった（図1）。

(2) サケ標識放流

再捕状況は、平成18年11月18日放流群が5尾、11月24日放流群が10尾の合計15尾であり（表1）、うち13尾から放流から再捕までの生息水温、水深、時間データを得た。水温は3.9～16.7℃、水深は0～262.2mの範囲であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

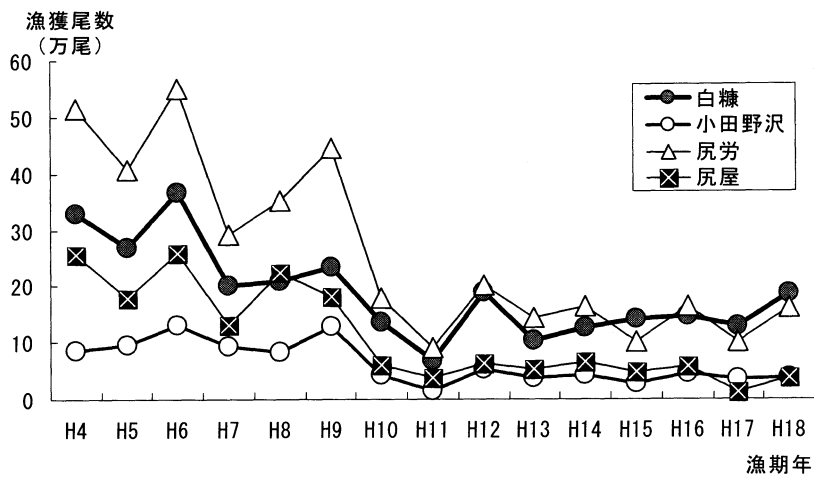


図1 東通村太平洋側各漁協のサケ沿岸漁獲尾数の推移

表1 平成18年標識放流魚の再捕結果

○ 11月18日放流群(11月17日白糠沖定置網で採捕)

No.	再捕月日	再捕場所	再捕漁法	標識種類
1	11月19日	小田野沢	刺網	ロガー
2	11月20日	泊	定置網	ロガー
3	11月25日	安家川 ^{*1}	やな	ロガー
4	11月25日	尻労	刺網	ロガー
5	11月23日	譜代村 ^{*2}	定置網	ロガー

*1 岩手県九戸郡野田村

*2 岩手県下閉伊郡普代村

○ 11月24日放流群(11月20日白糠沖定置網で採捕)

No.	再捕月日	再捕場所	再捕漁法	標識種類
1	11月24日	白糠	漂着	ロガー
2	11月25日	老部川	やな	ロガー
3	11月26日	老部川	やな	ロガー
4	11月25日	老部川	やな	ディスク
5	11月25日	老部川	やな	ディスク
6	11月28日	老部川	やな	ロガー
7	11月28日	野牛川	漂着	ロガー
8	11月28日	尻労	刺網	ロガー
9	11月28日	尻労	刺網	ロガー
10	11月28日	尻労	刺網	ロガー

(今後の問題点) なし

〈次年度の具体的計画〉 今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

青森県 (2006) 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書平成18年度 (第3四半期).